

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・暖かくなり、緑も多くなってきたので、観光客も3か月前からみると増えている。今年は前年を上回ると思えるほど観光客が入っている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・周りのショッピングモール、食品スーパーのリニューアルオープンに合わせて客の動きが活発になり、当店も売上増となっている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークが桜満開と重なり、道内からの観光客の入込によって、飲食店関係は前年並みを確保した。ただし夏物衣料は天候が安定せず鈍化している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・厳しい状況に変わりはないが、客の購買動向をみると、やや持ち直している様子がうかがえる。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・今月は1か月を通して気温の寒暖の差がはっきり表れている。寒い日は季節商品、特に衣料品において売上がめっきり減るものの、気温が前年並みになると客足も増えており、結果として売上は前年を3%上回っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・4月は誕生祭という力を入れた売出しがあったので、今月の販売量は先月よりは悪いが、前年と比べると5%ほど増加している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・函館地区のみで考えると景気は決して上向きに動いているとは思えないが、週末を中心に札幌圏から流入してきていると思われる車の流れが良くなっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年と比べて3割くらいアップしている。夏物の商品構成のため、3か月前と比べると客単価は下がっているが、来客数の増加がそれをカバーしており、売上も増加している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・先月に引き続き、2か月連続で来客数が前年を上回っている。ただし客単価は相変わらず下がっており、売上はそれほど伸びていない。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・外国人旅行者を中心に宿泊客は相変わらず好調だが、宿泊単価が低めとならざるをえず、売上は微増となっている。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・愛知万博関連の動きは順調で、観光の旅行動向は順調に前年を超えている。また、ビジネス客も含めた東京への動きも前年より伸びている。ただしゴールデンウィーク後の来客数は、低温の影響もあって良くはない。		
設計事務所（職員）	お客様の様子	・顧客が販売している札幌市内の分譲マンションの売行き状況をみると、これまでよりも伸びが大きく、在庫戸数が減少している。		
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順による来客数の減少が大きい。例年と比べて異常に寒いこともあり、客が街に出てこない状況にある。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・依然として客の慎重な購入態度が続いている。本当に今すぐ必要なものしか買わないというのが実態である。季節商品は不安定な気候のせいもあるが、まだまだ出足が鈍く、先行きが心配である。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・ゴールデンウィーク明けはお金がないという客の買い控えがみられる。販売が単品中心となる月なので商品単価の金額が低くなっている分、売上にかなり厳しく影響している。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・例年はゴールデンウィークを境に観光客が一気に増えるが、今年は愛知万博に観光客を取られたことや、何よりゴールデンウィーク明けの低温が客足を鈍くしており、売上にも良い影響が出てこなかった。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・春物の値下げが一段落して、初夏・夏物をメインに展開している時期だが、割引販売会を待っている客や、6月以降の値下げの時期を聞いてくる客が非常に多い。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は前年を確保できているが、客一人当たりの買上点数が平均6.5個と減少しており、販売点数の伸び悩みが続いている。	

	スーパー（店長）	来客数の動き	・売上は前年比94%と全国平均値の100%から約6%下回っている。大きな要因として、天候不順による衣料品への影響が挙げられる。一方、住居用品や食品の売上はほぼ前年並みであり、徐々にではあるが回復に向かっている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・昨年と比較すると今月は気温が極端に低く、農作業の遅れがみられるほか、観光需要も大きく減少しており、来客数の動きが非常に悪かった。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・地方に出稼ぎに行っていた男性客が戻ってきているなど、来客数は増えているが、買上点数、買上金額が伸びない。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数、客単価、販売量、全ての面において3か月前と比べてほとんど変わらない横ばい状態であり、比較的落ち着いた状態にある。
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・客の買い方が慎重である。
	家電量販店（地区統括部長）	単価の動き	・薄型テレビ、DVDを中心にAV商品が好調であり、新製品も活発に発売されているものの、昨年末より単価ダウンが続いている。
	乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・当社はあまり良くないが、新型車の出た他社ではそれなりの成績が上がっている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の売行きは好調であるが、既存車種が前年より悪く、全体的には前年と同じくらいである。
	住関連専門店（従業員）	販売量の動き	・あまり暖かくならないので春物の動きが鈍い。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	お客様の様子	・石油製品の価格が高値にて安定しており、家計を圧迫し、買い控えが続いている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・愛知万博や低温の影響により、道内観光への関心がそがれ、ゴールデンウィーク中の宿泊客が大幅な減少となったほか、地元客も旅行の手控えや近隣行楽地への移行がみられ、店舗利用が低下しており、月間を通じて低下したままであった。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後もランチはほぼ前年並みであるが、ディナーが不振である。予約はあまりなく、フリー客がほとんどである。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・毎年5月は悪いのが当たり前という感じであり、全体で昨年程度であった。昼食はゴールデンウィーク明けから客数を落とし、特にビジネスマンが激減して昨年から20%以上のダウンとなった。夕食は昨年並みであったが個室が2割減少した。ゴールデンウィーク中は観光客の夕食利用が悪く、ゴールデンウィーク後も顧客の来店回数が減り、懐具合が悪いように感じた。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量、来客数とも伸びない。就職試験や会議などの用務旅行が主で、行楽という観点での動きが少ない。客単価の伸び悩みも継続している状態である。
	観光名所（職員）	単価の動き	・少しでも値上げをすると、客が敬遠する傾向がみられる。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・新規来店客と休眠客の数がきつ抗している。総体的な売上はあまり変わらない。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・モデルハウス等の来場者数は相変わらず変わっていない。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量の低下は数年続いているが、客の様子からすると所得の低下がかなりの要因になっていると感じる。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数が前月より減っており、販売量が落ち込んでいる。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・低温が続く天候不順の影響で、春物・夏物の商品の動きが非常に鈍い状況である。しかし物産催事は客の動向が良く、前年の数字は確保できている。
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク後半からの低温続きで、食品は焼肉などの春の行楽商品、衣料品は春物・初夏物の動きが鈍く、来客数、販売点数ともに苦戦している。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・5月は気温が低く、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどが良くなかった。運動会シーズンなのでビデオカメラが良く売れたが単価が低い。

		その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・記録的な寒い春で季節商品が全く動いていない。寒い分、客足が更に遠のいている。
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・愛知万博の影響はまだ感じられないが、花の咲く時期の遅れが響いている。旭山動物園へのツアーで何とかしのいでいるが、来客数の減少を止められず、厳しい状況にある。
		観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・来客数の動きが前年に比べて落ち込んでいる。函館の観光入込客数が総体的に減っているのが原因だが、その理由がよく分からない。一説には愛知万博の影響と言われているが、はっきりとした理由はまだ分からない。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、客足が止まっている。6～7月にかけての申込件数も伸びてはいないし、来客数も増えてはいない。
		観光名所（役員）	販売量の動き	・ロープウェイの搭乗者、レストランの売上高はそれぞれ前年から5%減少している。
	悪くなっている	タクシー運転手	来客数の動き	・例年5月はゴールデンウィークなど休みが多く、タクシーの利用が少ない月であるが、今年はゴールデンウィークが過ぎてもタクシーの利用が少なく、平日・週末とも昨年までと比べて売上が大きくマイナスとなっている。マスコミでも報道されたように、最近では道内でも最低賃金が払えなくて廃業する大手タクシー会社も出てきている。札幌もそこまでひどくはないが、売上の減少が続いているので、賞与を昨年より大きく減額する会社が多いと聞いている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・本州の大都市圏のマンション向けの物件等が好調である。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・好調に推移している本州の建設市場及び中国の開発、好調な自動車等に支えられ、鉄鋼は現在フル生産に入っている。その影響を受け、道内の鉄鋼関連メーカーもフル生産に入っている。これにより道内から本州・中国向けの鋼材の出荷は大きく伸びており、現在の見通しでは今年度一杯はこの状態が続くと想定される。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今月は受注量、問い合わせともに好調であり、ここしばらくの横ばい感からは少し上向きと感じる。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前は行楽需要向けの本州方面への出荷が多く、フル生産であったが、ゴールデンウィーク後は北海道地方の天候が不順で行楽需要が盛り上がらないため、道内受注が非常に減っている。
		食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・北海道新幹線の工事着工や中核都市指定の明るい話題はあるものの、観光入込数や行楽期における消費需要への効果はなく、景気は良くなる見込みではない。
		金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格が上がるなど、環境がとて悪く、良い状況ではない。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の3月決算対策で貨物が動いたことから、新年度に入って荷薄状態が続いている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注価格、受注量とも良くも悪くもないところである。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備資金の需要は低調である。本州系企業の大規模投資が押し上げているが、道内中小企業の投資意欲は弱い。また春先以降の低温や雪解けの遅れが、消費にマイナスの影響を及ぼしている。加えて地場の小売業は大型スーパーなどの進出もあり、厳しい状況にある。大きなウエイトを占める建設業は、公共投資の削減が続く相変わらず低迷している。
司法書士		取引先の様子	・個人住宅の新築着工が伸び悩んでいる状況にあって、取引先においては依然として厳しい状況が続いている。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	競争相手の様子	・同業者と情報交換しても、営業実績が上向いている状況はない。	

	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・建設投資額に動きがみられない。
やや悪くなっている	その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・宿泊客のうち海外旅行者に関しては、反日感情の影響が中国・台湾・韓国等からの入込が悪い。また道外客に関しては愛知万博の影響がある。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-
やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・若干ではあるが、ゴールデンウィーク明けから正社員の採用意欲が求人件数に表れているように感じる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・例年のような求人件数の落ち着きがみられず、求人数は高いレベルを維持している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年と比べて4か月連続で増加している。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・4月から採用試験が開始され、多くの企業が筆記試験、適性試験そして面接試験を経て最終役員面接を終了した。その結果、内々定の通知を受け取った学生が多数いる。このことから新採用社員の確保が着々と進んでいるようであり、雇用環境は良くなっている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・中途採用の求人数はやや増加気味ではあるが、採用の基準は相変わらず非常に高く、なかなか企業は内定を出したがない。企業は核となる人材の採用は時間をかけてでも慎重に行うなど、無駄な人件費を抑制する動きにある。これは各企業とも業績が横ばいで、無駄な経費を使うことができないことの表れともいえる。そして、その間の人材の調達手段として、人材派遣やアウトソーシングの活用が目立ってきている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・昨年と比較した求人件数の伸びは、昨年後半から傾向は変わらず、プラス10～20%で推移している。5月はコンビニや居酒屋の求人が好調だった。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・4月同様に建設関連はやや上昇傾向にあるものの、他分野においては横ばい、もしくはやや下り気味である。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・前月と比べて改善された業種は見当たらない。土木建設業は前年からの落ち込みが大きい。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあるが、就業地が地元である求人はそれ程増加していない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で11.9%の増加となった。業種別にみると、増加した業種は医療、福祉、サービス、減少した業種は製造業、卸・小売業となっている。パート求人の割合が約40%と高い割合を占めている。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-